

キャンパス散策（高知工科大学）

沿革と概要



高知工科大学
KOCHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

高知県には本学が開学するまで、工学教育を行う大学はなく、進学を受け皿として、また、教育・研究の成果を通して人材育成や産業振興を図るための大学が待望されていました。こうした県民の期待を受け、高知県が設置し学校法人が運営する公設民営の私立大学として、1997年に「高知工科大学」が誕生しました。地域からの声を受け開学したということは、私立大学でありながらも、開学時から「地域貢献」を目的としてスタートした大学だと言えます。

改革

マネジメント学部の設置。工学部の再編。公立大学法人への移行。一連の改革は、「大学のあるべき姿を常に追求し、世界一流の大学を目指す」を基本理念とする本学が、開学10周年を機に行った「改革の三本柱」です。

2008年に開設した「マネジメント学部」は、3年次より「企業マネジメント」、「社会マネジメント」、「起業マネジメント」のコースを選択し、企業はもとより、自治体や地域コミュニティ、国際貢献NPOなどさまざまな組織において、高度なマネジメント能力をもち、プロジェクトをより効果的に推進していける人材育成を目指します。

翌2009年には多様な理工学領域をカバーする、合わせて13の専攻で構成されるシステム工・環境理工・情報の3つの「学群」からなる「学群・専攻制」に工学部を再編。1・2年次は「学群」のみに所属し、学生一人ひとりが視野を広げ、関連する分野に興味・関心を持ち、その上で3年次より自身の専門分野となる専攻を決める教育システムで、社会に求められる「深い専門性と幅広い視野を持つ人材」を育成します。

そして同年、日本で初めて、公設民営の私立大学から公立大学へ移行しました。

また、公立大学法人への移行と同時に、「地域連携機構」が



キャンパス全景

発足しました。複数の研究室から成る「連携研究センター」と、地域活性化を担うシンクタンクともいえる「地域連携センター」が有機的に結びつき、従来の工学を基盤とした産官学連携にとどまらず、地域活性化に向けた課題の分析、政策提言や検証など、社会科学の手法も導入しながら、地域社会への更なる貢献を目指しています。

美しく機能的なキャンパス



鏡野公園からの全景

敷地総面積16.8ha（東京ドーム約3.3個分）、「アメリカ景観建造物協会優秀賞」、「公共建築賞優秀賞」を受賞し、隣接する県立鏡野公園とともに「日本さくら名所100選」にも選定された、印象的な赤煉瓦積み建物の群と緑豊かな美しいキャンパスは、周囲に塀やフェンスを設けない独特のオープンキャンパス

設計により、学生だけでなく地域の人たちの憩いの場となっています。

教育研究棟は吹き抜け部分を多く設けることで自然光を採り入れるだけでなく建物に賑わいをもたらしています。4階部分は一面ガラス張りの教員室フロアとなっており、コモンスペースと呼ばれる共有スペースが学生と教員、所属の垣根を越えた教員間の交流を生み、教員が時間を決めて学生の質問や相談に応じる「オフィスアワー」をより効果的に機能させています。



キャンパスの桜



教育研究棟内部

キャンパス内にある15階建て2棟のドミトリー（学生寮）は238室すべてが個室で、デスク・バス・トイレ・冷蔵庫・クローゼット・エアコンを完備し、インターネットや学内LANに各室から自由にアクセス可能です。



コモンスペース



ドミトリー

キャンパスの中央に配された附属情報図書館は24時間利用可能なメディア学習室を擁し、学生の知的



附属情報図書館

好奇心に対応しています。

独自の教育システム

必修科目を設けない「全科目選択制」を採用し、学生が将来の目標や興味に応じて自由に学ぶことができます。そして、1年を4学期に分ける「クォータ制」は短期間で集中して学ぶことで、身に

つきやすいカリキュラムを実現しています。

さらに特徴的な教育システムが、徹底した少人数指導で「論理的に、正確に、読む・書く・話す力」を高め、大学で学ぶ意欲と目的意識を養う科目「スタディスキルズ」です。高校と大学の「学び方」のギャップを埋める導入科目として、長年企業等の第一線で経験・実績豊富な「教育講師」が細やかに指導にあたります。

学士課程と大学院の教育連携を図る目的で、優秀な学生は学士課程3年次終了後に大学院に進学できる「早期卒業」制度を設けています。

学生生活

大学祭「Flying Fish Festival」は、隣接する鏡野公園で催される地元香美市の刃物祭りと同様に、学生の活動表現の場であるとともに、地域との連携を深める開かれたイベントとして成長しています。

高知の夏の代名詞「よさこい祭り」には、開学1年目から毎年参加を続ける他、学内外を問わず様々な行事で学生が演舞を披露しています。

12月から1月にかけて学生が夜のキャンパスを約3万球のLEDで彩る「キャンパスイルミネーション」は、先輩から後輩へと引き継がれ、進化を続けながら地域の冬の風物詩として定着しています。



大学祭

今後も、これまでの歩みを尊重しつつ、「私立大学の良さ」を活かした公立大学として、変化を厭わず「大学のあるべき姿」を追求し続けていきます。



キャンパスイルミネーション